



ひさこづか こふん かつはらくよる
瓢塚古墳 (勝原区丁)

第七卷 下 資料編 考古 目次・掲載内容

目次	掲載遺跡数	図	表	写真	総頁
1 旧石器時代	9	12	0	3	9
2 縄文時代	18	53	0	3	56
3 弥生時代	32	157	3	4	181
4 前方後円墳時代	62	236	8	26	280
5 官衙と寺の時代	46	215	5	8	241
6 城と構の時代	10	55	1	0	63
合計	177	728	17	44	830

巻頭カラーグラビア	11
巻頭モノクログラビア	15
付図 遺跡分布図	
壇場山古墳墳丘測量図	
宮山古墳第2・3主体	

原始・古代の姫路市域

——資料編第七卷(下)の刊行にあたって——

このたび『姫路市史』第十七回配本として、資料編第七卷(下)考古編が刊行されることになりました。この資料編は姫路市域の原始・古代の主要な遺跡や遺物を個別に解説したもので、私たちの郷土の歴史を学ぶ一助となるものですが、諸般の事情により刊行が大幅に遅れてしまいました。まず、衷心よりお詫び申し上げます。

さて、この資料編では今まで発掘調査報告書が刊行されなかった遺跡も含めて、市域に所在するほとんどすべての遺跡を網羅しています。例をあげますと、旧石器時代では、九カ所の遺跡から出土した旧石器が図化されて、所在地が公表されました。縄文時代では、飢えに苦しみながらも必死に暮らした縄文人の生活を復原しています。弥生時代では、本邦初の銅鐸の石製鑄型が出土した名古屋遺跡が圧巻です。前方後円墳時代では、市域最大の壇場山古墳をはじめ、大半の前方後円墳の実測図を作成し、発表しました。また、既に破壊され消滅した古墳の再発見にも挑戦しています。特徴のある横穴式石室も可能な限り実測し、図化しております。このほか渡来系の遺物が大量に出土した宮山古墳や見野長塚古墳、山崎山古墳群などを紹介しております。官衙と寺の時代では、出土した古瓦や土器、遺構などから播磨国府や古代寺院、駅家跡などを解明するとともに、当時の人々の暮らしぶりを垣間見ました。最後に、城と構の時代では市域の主要な中世城郭を取り上げており、播磨中世史研究には欠かせない存在となるでしょう。

市史発刊によってべールに包まれていた市域の考古遺跡や遺物が、ようやく市民共有の財産となったわけです。文章はできる限り平易に、難解漢字や遺跡名にはルビをうっています。また、読者の理解の便宜を図って、本文は見開きとし、図や写真を多用しています。二年後に姫路市史考古の本編を発刊する予定です。合わせて座右の書としていただければ、望外の喜びです。

既刊案内

本編	第一卷	上	自然	(既刊)
	第一卷	下	考古	
	第二卷		古代・中世	
	第三卷		近世1	(既刊)
	第四卷		近世2	(既刊)
	第五卷	上	近現代1	(既刊)
	第五卷	下	近現代2	(既刊)
	第六卷		近現代3	
資料編	第七卷	上	自然	(既刊)
	第七卷	下	考古(今回発刊)	
史料編	第八卷		古代・中世1	(既刊)
	第九卷		中世2	
	第十卷		近世1	(既刊)
	第十一卷	上	近世2	(既刊)
	第十一卷	下	近世3	(既刊)
	第十二卷		近現代1	(既刊)
	第十三卷	上	近現代2	(既刊)
	第十三卷	下	近現代3	
別編	第十四卷		姫路城	(既刊)
	第十五卷	上	民俗編	(既刊)
	第十五卷	中	文化財編1	(既刊)
	第十五卷	下	文化財編2	(既刊)
	第十六卷		年表・索引	

購読申し込みについて

書名

姫路市史第七卷 下 資料編 考古

本の体裁 A5判 上製本

中性高質紙使用

装丁用織物表示 貼箱入

頒 価 五、〇〇〇円 送料五百円

(一部につき)

頒布方法 郵送希望の場合

●現金書留・郵便為替

左記住所までご送金ください

直接購入の場合

城内図書館 史料整理室、

市政情報センター(市役所1階)へ

お越しく下さい。

申込先

〒670-0012

姫路市本町68-258

(日本城郭研究センター内)

城内図書館 史料整理室

TEL(079)289-4886

FAX(079)289-4891